

中央大学札幌支部支部史(明治・大正・昭和)

年	月	日	名称	概要	
1885年	明治18	7	11	英吉利法律學校設置認可	東京府神田区神田錦町2丁目2番地に、英吉利法律学校として創立された。 創設者は、増嶋六一郎、高橋一勝、岡山兼良、高橋健三、岡村輝彦、山田喜之助、菊池武夫、西川鉄次郎、江木衷、磯部醇、藤田隆三郎、土方寧、奥田義人、穂積陳重、合川正道、元田肇、渡辺安積、渋谷慥爾の諸氏。初代校長 増嶋六一郎、初代幹事 渋谷慥爾 中央大学百年史年表より
1889年	22	10	1	校名を東京法學院と改称	院長 増嶋六一郎
1898年	31	8	18	東京法學院院友會北海道支部大會の開催	北海道支部の発會式は、午後4時より札幌市内の豊平館において挙行された。東京法學院院友會本部からは、菊池武夫法學院長・土方寧法學院幹事・岡野敬二郎講師・坂本武治院友會本部総代(後の佐藤正之)のほかに来賓として、北海道廳長官杉田定一・同事務官堀内賢郎・札幌地方裁判所長村地正治・同検事正児玉利明・札幌農學校長佐藤昌介・炭鑛鉄道株式會社同地支配人大島六郎・札幌麦酒株式會社支配人植村一郎・葡萄酒醸造會社社長長谷七太郎・新聞記者阿部宇之八の諸氏が臨席した。 院友の出席者16名は以下の通りである。 ・ 佐藤三吾氏 (明治23年東京法學院邦語法学科卒業) ・ 東武氏 (同23年東京法學院邦語法学科卒業) ・ 武田己知衛氏 (同23年東京法學院英語法学科卒業) ・ 村田不二三氏 (同24年東京法學院邦語法学科卒業) ・ 小町谷純氏 (同24年東京法學院邦語法学科卒業) ・ 佐々木軌三氏 (同24年東京法學院邦語法学科卒業) ・ 奥村数次郎氏 (同24年東京法學院邦語法学科卒業) ・ 高山龜太郎氏 (同24年東京法學院英語法学科卒業) ・ 松村 良藏支 (同25年東京法學院學英語法学科卒業) ・ 奥山喜代太郎氏 (同26年東京法學院邦語法学科卒業) ・ 下村多四郎氏 (同26年東京法學院邦語法学科卒業) ・ 高澤垣藏氏 (同27年東京法學院邦語法学科卒業) ・ 咲間結氏 (同27年東京法學院邦語法学科卒業) ・ 青木雄太郎氏 (同29年東京法學院英語法学科卒業) ・ 足立重雄氏 (同29年東京法學院英語法学科卒業) ・ 上野勘助氏 (同31年推薦學員) 發會式に先立ち豊平館の庭園で記念撮影が行われ、その後小町谷支部総代が開會の趣旨及び来賓に対する謝辞を述べた。席上、菊池法學院長は東京法學院の来歴と現況を述べ、来賓を代表して杉田長官が祝辞を述べた。 會食にうつると歓談に花が咲き、散會したのは午後8時であった。また、發會式終了後には、會場を偕樂園にかえて懇親會が開催され、菊池一行と院友諸氏との交流がより一層深められ、宴も盛り上がり歌う者あり舞う者あり散會したのは午前12時頃であった。 当日の懇親會は、村田不二三、小町谷純、武田己知衛の三氏が發起人となり、出席者は佐藤三吾、佐々木軌三、松村良藏、青木雄太郎、高澤垣藏、足立重雄、高山龜太郎、上野勘助、東武、奥山喜代太郎、奥村数次郎、咲間結、下村多四郎の諸氏であった。明治31年9月20日付発行の法学新法第90号雑法北海道支部大會73頁～74頁、中央大学史記要第5号46頁～47頁に、資料カード(新聞・雑誌)法学新法第90号明治31年9月20日北海道支部大會より。
		8	19	東京法學院院友會本部一行招待會の開催	菊池學院長一行は札幌製麻會社・札幌麦酒會社を參觀し、さらに佐藤札幌農學校長の計らいで同校の付属農園や博物館を見学した。 村地正治札幌地方裁判所長、佐藤昌介、大島六郎、谷七太郎、対馬嘉三郎の六氏が發起人となり、札幌市内の東京庵で午後5時より菊池氏一行の招待會が開催された。村地裁判所長の挨拶を受けて、先ず菊池院長が謝意を述べ、次いで岡野・土方の両氏がそれぞれ商法に関する講話をおこなった。 歓迎の酒宴が終わったのは、午後11時であった。因みに札幌からの出席者は、杉田定一、土方和親、堀内賢郎、松永正敏、川村藤綱、植村澄三郎、山本莊之介、中西六三郎、中川一介、岡田博、木村秀實、阿部宇之八、赤星榮三郎、黒柳金次郎、渡邊信四郎、南鷹次郎、佐藤三吾、小町谷名純、村田不二三、奥山喜代太郎、松村良藏、足立重雄、武田己知衛、佐々木軌三、高山龜太郎、小西和、齋藤亨の諸氏合わせて30余名。
1899年	32	7	9	院友會札幌支部例会の開催	東京庵において開催。資料カード(新聞・雑誌)法学新法第101号明治32年8月20日付と法学新法第90号81頁より。
		8	6	院友會札幌支部例会の開催	院友會幹事村田、小町谷、武田諸氏の呼びかけで、本支部の例會を、中島遊園地にある大中亭において學員23名参集し開催。当日の出席者は次の通り、判事里見恭次郎、判事松澤常四郎、司法官試補濱田和三郎、判事佐々木軌三、辯護士村田不二三、辯護士小町谷純、炭鑛會社員武田己知衛、北海銀行員松村良藏、北海道廳属足立重雄、北海道廳属松田諒治、北海道廳属山田晴久、會計検査院属河野秀男、農業高山龜太郎、農業上野勘助、農業葛田經國、農業東武、日本銀行員

					中山恒三郎、農業奥山喜代太郎、屯田銀行員品川熊松、弁護士奥村次郎、裁判所書記阿部慶朔、検査官岩波一郎、検査官補東多次郎。資料カード（新聞・雑誌）法学新法第101号明治32年8月20付と、法学新法81頁～82頁より。
1900年	33	8	27	北海道院友會の開催	會計検査官岩波一郎、同検査官補秋本豊之進、弁護士齋藤二郎、弁護士横田千之助の諸氏北海道出張を機に、院友會支部幹事の村田不二三氏の呼びかけで、札幌東京庵において午後5時より院友15名が参集し、院友會を開催。 当日の出席者は次の通り、判事佐々木軌三、北海道商業銀行支配人品川熊松、弁護士村田不二三、検事濱田和三郎、判事大友歌次、書記齋藤為尾、書記阿部慶朔、北海道商業銀行役員佐久間悦、北海道廳屬石井武郎、官吏村山儀七、日本銀行員守川元人、北海道銀行員松村良藏、大地主奥山喜代太郎、拓殖銀行員武田己知衛、判事里見恭次郎。 資料カード（新聞・雑誌）法学新法第114号9月20日付より。
1901年	34	5	14	院友會札幌支部会の開催	札幌區裁判所検事三井三左衛門氏青森に転任のため、在札幌院友の村田不二三、武田己知衛の諸氏をはじめ凡そ14名参集し、創成河畔楊柳亭において送別の宴を開催。資料カード（新聞・雑誌）法学新法第122号明治34年5月30日付より。
		10	27	東京法學院院友會札幌大會の開催	小樽札幌兩區の中間にある輕川の光風館において開催。当日の出席者は次の通り、札幌區からは、弁護士道會議員村田不二三、北海拓殖銀行武田己知衛、農業高山龜太郎、札幌地方裁判所判事大友歌次、同和田哲也、同書記齋藤留尾、同検事澤邊浩、道會議員東武、同村山儀七、同新津繁松、小樽區からは、弁護士小町谷純、同奥村敬次郎、小樽區裁判所判事里見恭次郎、集英舎理事馬場牧次郎、小樽銀行堀田武三郎、小樽區裁判所書記竹村友三郎、北海道商業銀行品川熊松、北海銀行松村良藏、小樽新聞土岐孝太郎19名。 資料カード新聞・雑誌）第128号明治34年11月20日付と法学新法第90号（札幌通信）第90号65頁～67頁より。
1903年	36			東京法學院院大學と改称	
1904年	37	11	3	院友會実業同窓会秋季大会の開催	隅田河畔にある札幌ビール会社の庭園において開催。
1905年	38	7	12	院友會札幌支部小集會の開催	幌都の郊外苗穂村浅羽農園（代議士浅羽靖氏所有）内の花園の四方家において午後4時から小集會を開催。当日は、幹事の村田不二三君以下14名の院友が出席。 出席者は、村田不二三、佐々木鐵藏、米田甚太郎、国枝壽賀次、齋藤留尾、杉山彌三郎、武田己知衛、里見恭次郎、山合龜次郎、本間寛二、白田潔、山本君、岡本君、櫻澤千藏。資料カード（新聞・雑誌）法学新法第175号（15-8）明治38年8月1日付より。
		8	18	校名を中央大學と改称	経済学科開設（後の経済学部）
		11	3	院友會を學員會と改称	
1907年	40	1	10	院友會札幌支部新年會の開催	札幌在住の中央大學學員諸氏は、札幌區南2條北4丁目にある東京庵において午後5時より新年宴會を兼ね同窓會を開催し、種種の餘興を行い散會したのは午後10時頃。当日の出席者は、伊東新吉、濱田和三郎、村田不二三（弁護士）、井上敏明、竹村友三郎、白田潔、山合龜次郎、松田令司、佐々木鐵藏（司法官）、米田甚太郎、原勝、杉山彌三郎、岡村熊雄（行政官）、村津寛、武田己知衛、國枝壽賀治、齋藤留尾、上野勘助（實業家）、土岐孝太郎、柴田鐵吉（新聞記者）。資料カード（新聞・雑誌）法学新法第195号（17-2）明治40年2月1日号より。
1909年	42			商業學科開設（後の商学部）	
1910年	43	7	30	院友會札幌支部講演會の開催	花井卓蔵法学博士による「刑法・道徳に関する」講演會を午後2時より札幌中央創成學校において開催。本講演會は、札幌區長青木定謙、札幌師範學校長星榮太郎両氏の要請によるものであった。
			30	院友會札幌支部小集會の開催	花井卓蔵博士の渡道を機に、在札幌學員諸氏は同氏の歓迎を兼ね小集會を開催。濱田和三郎氏の歓迎の挨拶、小町谷純氏の挨拶後、花井氏からは謝辞に続いて、母校の近況、記念會への寄付金の要請があったが満場異議なく了承した。 尚当日の出席者は、高木國尚、岡島峰藏、井上敏明、山合龜次郎、八木橋栄吉、東武、村田不二三、中西六三郎、齋藤亨、関谷篤三、小谷野御作、並木幾彌、濱田和三郎、戸田正憲、大内匡、小町谷純、小川千里の諸氏。 資料カード（新聞・雑誌）法学新法第234号明治43年9月1日付より。
1919年	大正8	7	7	財団法人中央大學設立	
			25	北海道中央大學學生獅子吼會演説會の開催	北海道中央大學學生獅子吼會演説會を札幌において開催。（～8.1旭川）
1920年	9				大學令による中央大學認可（法・経・商3學部、大學院、大學予科）
1925年	14	1	10	學員會札幌支部会の開催	狸小路にある牛若で開催。
		8	10	學員會全道大會の開催	札幌の豊平館で開催。
			11	學員會札幌支部講演會の開催	札幌時計台で開催。
		10	13	學員會札幌支部秋季会合の開催	ユーゴー亭で開催。
1926年	15	8	1	學員會札幌支部大会の開催	狸小路にある牛若で開催。
			15	駿河台校舎完成	神田錦町から移転。
1928年	昭和3	3	2	中央大學商業學校開校	中央大學商業學校設立認可（夜間、4年生）。

		6	10	中央學學友会競走会の遠征	學友会体育部後援会の援助で、北海道帝國大學へ遠征し対抗戦に勝利。
		7	21	夏期學術後援会の開催	學術講演会を宇都宮・会津若松・福島・三重・大津・札幌・金沢・盛岡・函館・長野において開催。(～8.26)
		8	4	北海道・樺太視察会一行函館到着	北海道・樺太視察のため原嘉道司法大臣・土方寧・ト部喜太郎・大松直重の一行、函館に到着。
1935年	10	11	4	創立50周年	創立50周年記念式典を大講堂で挙行。
1944年		3	13	中央工業専門學校開校	中央工業専門學校設立認可(機械科、航空機科)
1948年	23	4		通信教育部開講	日本比較法、經理の2研究所設置。中央大學商業學校を中央大學高等學校に改組。
1948年		6	27	昭和23年度札幌支部総会の開催	
1949年	24	2	21	新制大学設置認可	新制大学発足(昼間部法・経済・商・工学部、夜間部法・経済・商学部)
1951年	26	1	31	文学部設置認可	文学部開設(1部文学科・史学科、2部文学科)、大学院法学、経済学、商学の3研究科開設。
1951年	26	3	5	財団法人中央大學を學校法人中央大學に組織変更認可	
1952年	27	5	15	學校法人杉並高等学校合併	杉並高等学校開校
1953年	28				大学院工学研究科開設(後の理工学研究科)
1954年	29	12	21	札幌市役所「中大会」、設立・発会式の開催	市内の清元で開催。
1955年	30	11	8	創立70周年	創立70周年記念式典を大講堂で挙行。大学院文学研究科開設。
1958年	33	2	22	中央大學札幌法曹会発会式の挙行	
1962年	37	1	20	工学部を理工学部と改称認可	工学部を理工学部に改組。
1962年		8	1	夏期學術講演会の開催	學術講演会を札幌商工会議所講堂において開催。朝川伸夫「日本人の法意識」・川口弘「経済成長の二重構造」・井上達雄「改正商法の会社計算規定の問題点」
1963年	38				後樂園キャンパス理工学部校舎完成。附属高等学校開校(杉並高等学校の改組)。杉並高等学校開校(名称継承)
1964年	39			経済研究所設置	
1966年	41	7	20	昭和41年度支部定時総会の開催	
		12	15	中央大學學員会報の発刊	學員相互の親睦をはかり、常に學員の健全な与論を結集して中央大學の興隆に寄与することを目的に學員会報を創刊。
1967年	42	7	26	昭和42年度支部定時総会の開催	<p>毎年恒例となった北海道六支部の支部総会は、ことしも7月28日の小樽を皮切りに開かれる。各地区で學員が相集い、賑やかなそして和やかな会合がもたれる。当支部の総会は、札幌の街を一望のうちに望むローヤルホテル10階の広間において、午後6時から昭和42年度の支部総会を開催した。</p> <p>定刻に達するや続々として支部學員の参集する者90名に達し賑やかに活気を呈した。来賓として母校より井上学長、合崎教授の両先生をお迎えして会場は一段と光彩を添えた。菅副幹事長司会の許に、石林支部長の開会の挨拶に始まり、渡辺幹事長の会務報告がなされたあと井上学長より母校の近況報告があり、浜田副支部長の乾杯に依って開宴した。草のみどりに風薫る・・・の校歌が流れる中で久しぶりに旧友が杯を交わし、談笑し誠に華々しく各自交歓の声が席をどよめいた。プログラムは更に進んで当会場を提供したローヤルホテルから“ささやかな”景品の抽選会が催された。</p> <p>当った者の自己紹介、余興は会場を更に愉快的楽しい雰囲気盛り上げた。時刻もはや午後8時30分となり、全員起立、井上学長の音頭で母校と支部の万歳を三唱し、和気あいあいのうちに散会した。</p>
1968年	43	10	10	「中央大學學員会報」を「學員時報」と改称	
1969年	44	8	8	昭和44年度支部定時総会の開催	
1970年	45	8	7	昭和45年度支部定時総会の開催	
1971年	46	7	26	昭和46年度支部定時総会の開催	<p>北海道の學員会7支部はことしも、旭川を振り出しに順次支部総会を開催した。大学からは綿貫、高橋両常任理事が前半と後半に分かれて出席した。各支部総会とも盛大をきわめた。</p> <p>当支部の総会は、午後6時から、札幌グランドホテルにおいて會員70名出席、本学常任理事綿貫謹一、學員会本部事務局長亀井幸次両氏臨席の許に行われた。田村誠一支部長の開会の挨拶後に幹事から1年間の会務報告が行われ、昭和45年度決算報告が議題として提出され、全会一致で承認された。</p> <p>渡辺幹事長から道内支部(函館支部を除く)學員名簿作成の準備を進めており、近く刊行される旨の報告がなされた。綿貫常任理事、亀井事務局長からは、学校並びに學員会の近況報告がなされた。</p> <p>総会終了後隣室において、クラブホステス多数参加の上に盛大な懇親会が開かれ、午後8時散会した。(昭和16年・法・田村法律事務所・田村誠一記)</p>
1972年	47	1	7	支部學員名簿の制作	學員時報昭和47年1月10日第55号より。
		8	1	昭和47年度支部定時総会の開催	北海道の7支部はことしも、7月24日の旭川を皮切りに順次総会を開催、母校から大塚理事

					<p>長の出席を得てなごやかな夏のひとときを過ぎた。</p> <p>ご来賓に大塚喜一郎理事長、亀井幸次学会事務局長を迎え、当支部の総会は、午後6時から札幌パークホテルで開催された。まず、田村誠一支部長の挨拶があり、渡辺敏郎幹事長の司会で、事務、会計報告を満場一致で承認した後、支部役員を改選。</p> <p>新しい支部長として石林清（元札幌市収入役、元北海道議会議員）を選出した。続いて、大塚理事長が立って、「学園の正常化、赤字財政の解消、教学施設の拡大、充実、国立と私学の差別撤廃等に努力を惜しまない」と、堅い決意の程を表明。</p> <p>その中で、とくに「過激派学生の行動は、目に余る。まじめに勉強しようとする学生に迷惑をおよぼす暴力には、断固、きびしい態度で臨む」と述べ、注目された。また、本学の将来展望にもふれ「八王子・由木村の多摩校地を含む教学施設充実計画には周到かつ緻密な計画と大胆かつ勇敢な実行力をもつてのぞむ」などの考えを明らかにし、更に「今年の司法試験には短答式で670人を超す大量合格者が出た。</p> <p>全日本相撲大会、東都大学や杞憂大会、東部レスリング大会にも優勝し、数多くの学生をミュンヘンに送ることができた。本学は、勉学、スポーツともに優位にある。」という朗報がもたらされた。</p> <p>次いで亀井学会事務局長から学会の近況報告があり、特に谷村会長の伝言として「大塚理事長が赤字財政の解消と教学施設の拡大充実を一日も早く達成できるよう全国22万学員の積極的な協力をお願いしたい」旨を述べ、ともに会場の拍手を浴びた。懇親会では、大塚理事長、亀井事務局長を囲み、本場のサッポロビールやチーズに舌鼓みを打ちながら、懐かしい話題がいっぱい。高田富与氏（元衆議院議員、元札幌市長）や井川伊平氏（元参議院議員）の大先輩も元気な姿を見せていたほか、北電の環境権訴訟をめぐる原告弁護団長の江沢正良氏、会社側顧問弁護士の田村誠一氏（日弁連人権擁護委員会副委員長四期）の呉越同舟もあるなど、約100人の出席者は、本学の発展に限りない期待を寄せながら、和やかなひとときを過ぎた。（昭和27年・法・（株）北海道新聞社・林武記）</p>
1973年	48	8	10	昭和48年度支部定時総会の開催	<p>北海道の7支部は今夏も、7月28日の室蘭支部を皮切りに順次総会を開催。母校からご来賓に堂野達也理事長、亀井幸次学会事務局長を迎え、午後6時から札幌パークホテルで開かれた。暦の上では、もう立秋というのに、夏型の高気圧にすっぽり包まれた札幌地方は連日の猛暑。涼しい夏のイメージは水銀柱の上昇と共に飛び散って観光客も悲鳴を上げるほどだが、会場には、約80人の学員が元気な姿を見せて、和やかな雰囲気。</p> <p>渡辺敏郎幹事長の司会で、事務会計報告を満場一致で承認した後、堂野理事長、亀井学会事務局長から本学の現状、将来の展望などについて報告があり、盛んな拍手。</p> <p>また、教学施設の拡充をめざす寄附についても、学員の積極的な協力が要望された。懇親会では、堂野理事長、亀井学会事務局長を囲み、まず、前支部長でもあり「環境権訴訟」をめぐる北電側・顧問弁護士でもある田村誠一氏の発声で乾杯。衆院議員や札幌市長をつとめた高田富与氏や、「スモン病訴訟」を手がけている弁護士の馬見州一氏の顔も見られ、にぎやかに話の花を咲かせた。</p> <p>ファイナーレは堂野理事長による学員会札幌支部と石林支部長による中央大学の力強い万歳三唱。それぞれに学生時代の思い出を新たにし、母校の限りない発展に期待を寄せながら別れを惜しんでいた。（昭和27年・法・（株）北海道新聞社・林武記）</p>
1974年	49	8	9	昭和49年度支部定時総会の開催	<p>学員会支部総会”北海道シリーズ”はことしも、札幌の渡辺幹事長、釧路の大竹事務局長らの努力で七支部が順次開催し、それぞれ盛会をきわめた。札幌支部の定時総会が8月9日午後5時30分から、松坂屋デパート8階で会員ら110名が出席して開かれた。</p> <p>総会ではまず新しい支部長に再び石林清氏を選んだ後、支部総会に出席のためわざわざ来札した谷村唯一郎学員会会長、崎田直次常任理事、亀井幸次学会事務局長らが会員に親しく挨拶。谷村会長は「全国各地の会員は本学の精神を受け継ぎ、立派に社会のため貢献している」と述べ、また崎田理事は「会員達が学んだ思い出の駿河台校舎は手狭になり、近い将来、多摩ニュータウン近くに移転することになった。</p> <p>新しい校舎は、近代設備はもとより緑も十分取り入れたものになり、校歌に文字通りマッチした校舎に生まれ変わる」と大学の近況を報告、次いで札幌支部の長老高田富与元札幌市長（大正14年・法）の音頭で懇親会に移った。懇親会はアサヒビール会社のご好意でビール飲み放題という豪華版。今回の総会には、在学生の父兄3名も出席、老いも若きも懐かしい学生時代を話し合い、夏の夜のひとときを過ぎた。</p> <p>懇親会は午後8時過ぎ谷村会長の一層のご健勝、学員の活躍を祝してバンザイの音頭で散会したが会場は北海道一の歓楽街ススキノのど真中。今夜は多に語ろうとばかり、それぞれが二次会に散っていった。（昭和27年・法。（株）北海道新聞社・林武記）</p>
1975年	50	7	28	昭和50年度支部定時総会の開催	<p>学員会支部総会”北海道シリーズ”はことしも七支部が順次開催し、それぞれ盛会をきわめた。当支部の総会は、当日午後6時から松坂屋デパート9階において開催した。北海道地区のトップパターンである。まず、石林支部長が挨拶に立ち、来賓の来道に対する謝辞と所感の一端を述べて、学員相互の連携強化と母校の隆昌を願う協力を呼びかけ、つづいて渡辺幹事長から事務報告、会計役員から会計監査報告が行われ、これを承認。議事を一通り終えると来賓の挨拶に移った。谷村学員会会長、崎田常任理事から、学員会の近況、母校の多摩校舎建設進捗状況等の説明</p>

					<p>を含む挨拶が述べられた。</p> <p>また亀井学員会事務局長から事務報告が行われた。こうして総会を終了、懇親会へと引き継いだ。約120名の学員が参集、百万都市札幌ならではの盛会ぶり。先輩、後輩相語らい、飲み、懇親の実をあげた。午後8時、校歌斉唱のあと石林支部長の”中央大学万歳”谷村会長の”札幌支部万歳”で閉会。参加者の多くは夜の街へと流れていった。札幌支部は本年、支部名簿を新しく発行した。その中で石林支部長は次のように「ご挨拶」を述べている。</p> <p>『いざ起て友よ時は今 新しき世のあさぼらけ 胸に血潮の高鳴りや 湧く歌声も晴れやかに 自由の天地ぞ展けゆく ああ中央……………』</p> <p>最近何気なく目にとびこんで来たこの母校の校歌の第三節がいかにも行動的に、フレッシュにわれわれ白門人に大事な事を呼びかけているようで、いつになく感動を覚えた。</p> <p>インフレ、物価高、公害、エゴの横行、政治、思想、教育の混乱……………数え上げるときりはないが、まさに現在の日本はあらゆる面で病んでいる。</p> <p>民族の将来を思う時赤信号の世相ともいうべく誠に憂慮にたえない。これに対し国民の多くは戦後三十年の豊かさの中に安住して、これらの責任をすべて他に転嫁し傍観者になっていないだろうか？国民一人一人が世を憂い、自己を戒め、世の中を健康体にするために今こそ立ち上がるべき秋であろう。</p> <p>この校歌の表現は単なる美辞麗句ではなく当時の大学に学ぶ若き白門人に対し、常に新しき世の先達としての使命感を持って立ち上がるよう強く期待し声高く呼びかけたものと思われる。</p> <p>学員諸君にはこの教学精神の原点に立ち返って、それぞれの分野における警世のオピニオンリーダーとして活躍される事を期待してやまない。このたびいろいろと苦心の結果発刊の運びとなったこの新名簿がそうした意味でも学員相互の連携強化の手引きになれ幸甚である。</p>
1976年	51	7	28	中央大学父母懇談会へ参加	
		8	16	昭和51年度支部定時総会の開催	<p>学員会支部総会”北海道シリーズ”はことしも7支部が順次開催し、それぞれ盛会をきわめた。当支部の総会は、当日午後6時から北海道経済センター8階ホールで開かれた。出席学員50名。石林支部長の開会宣言のあと早速役員改選を図ったが、支部長留任の声に全員賛意を表し、再選が決定。石林支部長は重任挨拶として「より一層の支部充実を図ると共に多摩校舎移転を全面的に賛成し、大学に協力しよう」と述べた。昭和50年度事業報告も承認。</p> <p>佐野常任理事からは、大学の現況、多摩校舎施設・移転についての説明があり、午後6時30分懇親会に入った。懇親会では、若い学員からさかんに多摩移転について、また先輩学員からは多摩校舎への交通機関についての質問もあり、まことに家族的情味を満喫した会となり、午後8時5分、中央大学の万歳三唱で閉会となった。</p>
		12	10	支部年末懇親会の開催	
1977年	52	8	25	中央大学学術講演会の開催	<p>北海道経済センター8階Aホールにおいて午後2時より開催。当日は市民・商工業者が参加し、2名の講師の熱のこもった2時間30分の講演は聴衆に強い感銘を与えた。ウィークデーにも拘らず、出足は順調で定刻30分前ころからだんだんと席は埋まり、開始時には150名の聴講者が入場盛会の内に終了した。</p> <p>本学商学部金子敬生教授からは「資源・環境制約の下での日本経済の新しい進路」、経済学部姫田光義教授からは「歴史における毛沢東時代と華国鋒政権」と題したタイトルでそれぞれお話を頂いた。</p>
			25	昭和52年度支部定時総会の開催	<p>学員会支部総会”北海道シリーズ”はことしも、7支部が順次開催し、それぞれ盛会をきわめた。8月2日の釧路支部を皮切りに8月27日の函館支部まで各地区で学員が相集い、賑やかなそして和やかな会合がもたれている。</p> <p>当支部は8月25日、札幌市の北海道経済センターにおいて開催した。午後6時過ぎ、旭川の支部から回って来た谷村学員会長、崎田直次中央大学常任理事、亀井幸次学員会事務局長三来賓を迎えて開会。この日の札幌支部では総会に先立って学術講演会が、多数の聴衆を集めて盛況裏に行われた。そのあとの支部総会ということで、大いに意気が上がっていた。出席学員約100名。</p> <p>谷村学員会会長からは学員会の近況、崎田常任理事からは大学近況とくに多摩校舎はこの秋には落成式を挙行できるとの説明があり、支部学員も喜び、期待を寄せた。夏の総会だけでなく、冬も多彩な企画で支部活動を続けている札幌、当日の懇親会も支部学員相互の連帯感は強く、終始和やかに歓談した。</p>
		11	22	支部幹事会の開催	
		12	8	支部年末懇親会の開催	<p>北の街に住む同門が毎年楽しみにしている当支部年末恒例の懇親会が12月8日午後6時から札幌・北海道会館で開かれ、121名の参加者がつかの間の時間、学生時代に戻って愉快なひとときを過しました。</p> <p>この日の参加者は、学窓を巣立って四十数年の大先輩から会員になりたてのニューフェイスまで幅広い顔ぶれ。司法関係をはじめ経済、行政などの各方面で北海道内の主要な役割を果たして</p>

					<p>いる人たち、次代をになう若手がずらりとそろい、中央大学出身者の各層への浸透ぶりを改めてうかがわせました。</p> <p>懇親会では卒業年度、学部を記入したネームプレートをそれぞれ胸に付け和気藹々。暖冬とはいえ、薄雪が積もる外の寒気を吹き飛ばすようにアルコールのピッチもあがりました。</p> <p>呼び物は幹事団苦心のアトラクション。先輩も後輩も一緒になって楽しめるようにと、知恵をしばったゲームの趣向があり、賞品もどっさり。各テーブルから代表者が出て”珍戦”が展開されるたびに会場にはどっと歓声があがりました。</p> <p>最後は全員で懐かしい母校の校歌を合唱、石林支部長の万歳三唱で、会を締めくくりましたが、皆いつまでも名残が惜しそう。学生時代への思い出を新たにするとともに、新校舎へ移転する母校の発展を心から願っていました。(昭和37年・経済・北海道放送(株)・岡本興二記)</p>
1978年	53			多摩キャンパス開校	1980年移転完了
1978年		8	1	昭和53年度支部定時総会の開催	<p>当支部の総会は、8月1日午後5時30分、三十年ぶりの猛暑の続く暑い夕べであったが、会場の札幌パークホテルに続々と会員が詰めかける。当初の予想を大幅に上回り、130名という参加者数。大正の大先輩から新卒まで、会員という連帯感が笑顔での参集となる。まず石林支部長が挨拶、現代こそ会員の心のつながりが必要と強調される。</p> <p>続いて渡辺敏郎幹事長の会務報告と決算報告。母校への献樹の報告にうなずき、決算を満場一致で承認。以上で総会を終了して、遠来の戸田学長を全員の拍手でお迎えする。暑さも熱烈歓迎していますと、司会の中西幹事から発言があつて、学長は多摩移転を中心に母校の近況をつぶさにお話しされ、感銘深い時間を過す。</p> <p>札幌弁護士会会長武田会員の発声で乾杯。予定以上の出席者にうれしい悲鳴の幹事達は、椅子・テーブルの追加やら料理の手配やらで忙しい。途中16ミリの学校建設の映写もあつて歓談は尽きない。午後8時に石林支部長のタクトで校歌の大合唱。北の街にこだまする校歌は、会員一人一人の青春である。</p> <p>矢吹会員の母校万歳。戸田学長の札幌支部の万歳。一つの熱気がもりあがり、歓は尽きず余人また尽きぬまま、声だかな談笑が流れていった。(昭和18年・法・渡辺法律事務所・渡辺敏郎記)</p>
		9	10	多摩校地記念植樹への協賛	<p>多摩の新キャンパスに、「ぜひわが支部、わが県の樹を記念に植えてほしい」という全国の会員の要望で推進された記念植樹計画に賛同して当支部からは「イタリアポプラ52本 ラグビー場並木」寄贈した。</p>
		12	1	支部年末懇親会の開催	<p>正面のステージにある12本の酒瓶。スコッチから芋焼酎に至るそれぞれを、各テーブルの代表は必死の思いで眺めていた。</p> <p>くじ引きによる飲み物の割り当てである。声援と爆笑の中でラツキーな高級スコッチ組と芋焼酎の落胆組が明暗をわける。12月1日午後6時、当支部忘年会は、全日空札幌ホテル24階「白楊の間」で底抜けに陽気なムードのうちに開会した。</p> <p>夏の総会が会務広告、母校現況報告、講演と多少お堅い面があるとすれば、冬の集まりは文字通り年忘れにふさわしいものに定着している。昨年も一昨年もそうであったように、老若会員のいずれもが楽しめるようにとの配慮から、年々趣向が凝ってくる。それだけに幹事の事前準備は大変なものだと思ふ。</p> <p>十二のテーブルに着席した113名の会員は、石林支部長の挨拶、渡辺敏郎幹事長の報告に一年間のご苦勞を謝す拍手を送った。</p> <p>札幌テレビ放送の人気アナウンサー喜瀬浩君(昭和45年・法)の軽妙な司会と共に、前記の飲み物くじ引きで早速に頬がくずれる。全日空ホテルに勤務する会員の配慮によって料理も豪華版だ。</p> <p>ヤング度テストと称する年輩会員の四苦八苦の十数分間で会場は一気に陽気になった。「カメレオンアーミー」を米軍の特殊部隊と答え、「キャンデイキャンデイ」を新開発の菓子だと胸を張る度に笑いと拍手が起きる。</p> <p>「あっち向いてホイ」のオリジナル版、テーブル代表ののど自慢に至って会場は完全に一つになった。すっかり童心にかえった会員はますます大声で話はずむ。先輩も後輩も校歌合唱までの2時間半本当に時を忘れた。笑顔と笑顔の握手が続き、肩をたたきながら三々五々散り始めたのは午後9時に近かった。</p> <p>会場と料理に気を配った会員、賞品提供に協力の会員、言うまでもなく幹事役の会員の努力いずれもが一つに結実して、今年の札幌支部忘年会は来年の発展を約して盛会だった。</p> <p>「丘にまばゆき白門の・・・・・・」と歌い続ける会員の肩に雪が舞ってきて、札幌は白一色の世界である。(昭和30年・法・(株)タナック・中西章一記)</p>
1979年	54				社会科学、人文科学、保健体育、企業の4研究所設置。
1979年		7	26	昭和54年度支部定時総会の開催	<p>「札幌の7月、まさに夏宵一刻値万金と言うべきか。ビール良し、酒も亦佳シ、ウイスキー好し。肴は口中に活き、かぶりつく焼肉に野趣は横溢する。北国の乙女等は微笑み、山の幸前にして露したたるジョッキ傾ける時、白い風は頬をかすめて、亭々たるポプラも語り始める。</p> <p>ああ中大の会員ここに在り、共に夢多かりし青春に乾杯!!」なんてのは美文調観光PR的同窓会報告めくが、実際北海道ならではの爽快な夕べ、7月26日(木)午後5時半、中島公園の緑陰にある札幌パークホテル「まりの間」に95名の会員が参集した。</p> <p>今年度の会員会札幌支部総会の開催である。崎田常任理事が母校からわざわざご持参下さった”</p>

					<p>大学の青春”（十六ミリ映画）をまず鑑賞。新校舎の壮大さと環境のよさに改めて驚く、石林支部長の挨拶、続いて渡辺幹事長の会務報告とその承認。</p> <p>更に役員改選年であるため選考委員の協議。結果を二宮嘉治選考委員長が発表する。「新支部長に渡辺敏郎氏を、名誉支部長に石林清氏を」満場の拍手。お二人のこれまで支部に貢献されたご努力への感謝と更に新しい発展を続ける体制の誕生を喜ぶ拍手だ。石林・渡辺旧新支部長のご挨拶があり、後日他の役員の方々を指名する旨新支部長より話される。</p> <p>この間、ご来札早々の崎田常任理事はお疲れも見せず、母校の現況を詳細に報告され、一同感慨深く拝聴する。</p> <p>懇親会。札幌パークホテル勤務の学员心づくしの料理の数々、寄贈者による数多くの飲物のサービス、同窓であることの連帯感は先輩を結びつけて話は果てしない。サービスの女性まで仕事を忘れて話し込み笑いこぼる。</p> <p>鈴木昌寿氏（ニッカウイスキー北海道支店長）が、往年のアイスホッケー部員をリードして校歌・応援歌の合唱。合唱の輪は会場一杯に広がり中大の青春が再現する。</p> <p>石林名誉支部長の力強い万歳が隔々までこだまする中で、冬の再会を約する握手があちこちで続く。午後八時半惜しみながら解散。ちなみにこの日の札幌午後6時の気温十九・五度。（昭和30年・法・（株）タナック・中西章一記）</p>
		12	6	支部年末懇親会の開催	<p>同窓会の楽しみの一つは、一步会場に入った時から、職場での上下関係、社会的立場の関係が否定されて、共通の学舎で過した仲間という一本の線だけが強く浮かび上がり、その中に過ぎた青春が色濃く明滅することである。</p> <p>渡辺敏郎新支部長のご挨拶、能登要新幹事長による新役員の紹介に続いて、早速各種の酒瓶を抱いたサービス女性の誘致合戦で爆笑が湧き始めた。司会はS T V工藤浩アナウンサー。昭和46年卒業の彼は競馬の実況中継も仕事の一つとか、十に分かれたテーブル をサラブットに見立て、いやが上にも興奮を駆り立て全員を笑わせ、走らせ、熱狂させる。</p> <p>ヤング度テスト、人気ドラエモンの好物は？頭をかかえる。007映画の最新作の題名は？首をうなだれる。山口百恵の恋人は？三浦友和。ああ中年の百恵ちゃん思慕は依然として強く、三浦友和への憎しみ強烈なるが故の正解か。</p> <p>カラオケ大会－玄人顔負けの美声が続いて採点の諸氏も悩む。調子に乗って三番まで歌ったから減点と発表される度に会場はひっくり返る笑いにつつまれる。</p> <p>伊豆逍遥歌、校歌の合唱になった時、誰しも時間の過ぎ去る早さに驚き、再び会える日をすぐに考えたに違いない。暖冬の札幌に雪はなく、しかし星は輝きを増していた。幹事諸氏に感謝。（昭和30年・法・中（株）タナック・中西章一記）</p>
1980年	55	7	10	支部幹事会の開催	
		8	5	支部ゴルフ大会の開催	
			6	昭和55年度支部定時総会の開催	<p>崎田直次常任理事、亀井幸次理事長室長（谷村会長代理）を迎えた当支部定時総会が、8月6日午後5時半から札幌市中央区南四条西五丁目にある東急イン2階「平安」で開かれた。</p> <p>「寒い夏」が続き、札幌25度、東京23度という”逆転気温”のなか、好天に恵まれて集まった学员は147名。喜瀬浩・札幌テレビ放送アナウンサー（昭和45年・法）の司会で、まず渡辺敏郎支部長（昭和18年・法）が挨拶。</p> <p>そのなかで、六十年に百周年を迎える母校の記念事業として「札幌に中大分校を一」と申し入れていることが明らかにされ、盛んな拍手。能登要幹事長（昭和32年・法）の決算報告は満場一致で承認。また、全日空札幌支店長から東京本社に転勤して数年ぶりに復帰した吉崎守三・札幌全日空ホテル常務取締役総支配人が紹介され、歓迎を受けた。</p> <p>この後、崎田常任理事が壇上に立ち、昭和2年以来53年の歴史を閉じた駿河台校舎の閉校祭について「それは、ボタン雪が一日中降りしきり、珍しく寒い3月22日のこと・・・提灯行列もあり印象深かった」など、目に浮かぶような話。「多摩の敷地には二千本のサクラが植えられ、歩道はレンガ色。緑の成長につれ、白っぽい校舎が映え、学園らしさを増すだろう」、「教育研究も順調に進んでおり、国際交流もより密接にする」、「百周年の記念事業は200年に向かっての長期計画－その最初のもくろみである。地続きに、小・中・高の一貫した教育体制を実現し、学部・研究所の新・増設もしたい。」など、豊富な学園づくりのプランが披露された。</p> <p>なごやかな懇親会では、亀井会長代理から”谷村会長からのメッセージ” が伝達され、母校の100周年に向けて、全国30万学员の与論を結集して大学に建議する等の報告があり、あちこちで肩をたたき合い、握手を交わす姿が見られ、名刺を交換して新しい付き合いも……。石林名誉支部長（昭和21年・法・札幌商工会議所専務理事）の乾杯で、母校の発展と学员の健闘を祈りながら散会した。（昭和27年・法・（株）北海道新聞社・林武記）</p>
		11	2	支部幹事会の開催	
		12	5	支部年末懇親会の開催	<p>中大学員会札幌支部の年末懇親会が12月5日夜、札幌全日空ホテルで開かれた。</p> <p>朝の気温が零下二度-前日のみぞれも穏やかな天候になり、会場を埋めた学员は150名という盛況っぷり。</p> <p>「最近の札幌市役所人事では、三人の局長クラスが全員中大卒、司法試験も東大と並び、スポーツも筑波大に勝つなど、ますます活躍、発展が期待される」という渡辺敏郎支部長の挨拶に続き、石林清名誉支部長が「乾杯」の発声。</p>

					<p>工藤浩・札幌テレビ放送アナウンサーの司会で懇親会は和やかに進められ「この春、中大卒、5月25日デビュー」のシンガーソングライター、いわさきゆうこ（新潟県出身）の紹介、昭和45年・法卒の喜瀬浩・札幌テレビ放送アナウンサーのレコードが九月二日に発売されたという披露も。「すべておまかせ」（いわさきゆうこ）「時計台のある街」（喜瀬浩）の歌に満場の拍手が浴びせられた。</p> <p>恒例の余興大会は、13のテーブルから代表選手を送り出してのクイズ。「王のホームラン」「歌謡大賞」「秋の天皇賞」＝第一部＝。愛校心にちなむ「創立何周年?」「明治22年の名称」「多摩校舎の広さ」「学部の数」「現在の学長」＝第2部＝。いわさきゆうこの「初恋」「バスト」「好みの年代」「特技」＝第3部＝など。多彩な出題に頭をひねったり、笑ったり・・・。</p> <p>校歌斉唱の後、武田庄吉・日弁連副会長の「閉会の辞」。それぞれに別れを惜しみ、再会を約しながら家路に向かった。（昭和27年・法・（株）北海道新聞社・林武記）</p>
1982年	57	7	25	支部幹事会の開催	
		8	3	支部幹事会の開催	
			5	昭和57年度支部定時総会の開催	
			6	中央大学父母懇談会へ参加	
			10	支部ゴルフ大会の開催	
			10	大学本部との打ち合わせ会議	<p>大学側出席者-渋谷理事長、宮田理事長室長付次長（募金趣意書配布数120部）</p> <p>募金協力依頼に対し、支部から次のような質問と募金に対する対応が示された。（ア）具体的に寄付の金額はいくら位が適当なのか（イ）建設予定の百周年記念館には学員が上京の際、宿泊できる設備は造るのか（ウ）募金の常任委員等が十月以降来道する予定なので、9月中旬に再度支部の募金委員が集まり募金に対する基本姿勢を決めることにする。</p>
		9	12	支部幹事会の開催	
			22	支部幹事会の開催	
		12	9	支部年末懇親会の開催	<p>恒例行事の支部昭和57年度忘年会が12月9日、札幌全日空ホテル（吉崎守三・昭和28年・商・専務取締役総支配人）において開催された。不景気を吹き飛ばせとばかり例年のことながら、総支配人をはじめ幹事長以下の懇親会担当者の企画と努力によって今年も参加者約140名の賑やかな忘年会となった。</p> <p>渡辺支部長の挨拶、高田幹事長の挨拶に続いて宇野真平氏（昭和31年・法・北海道議会議員）、平野明彦氏（昭和32年・法・北海道議会議員）、八田信之氏（昭和42年・商・札幌市議会議員）の三氏から地方議員の抱負が述べられて、堀北朋雄氏（昭和30年・法・札幌市厚生病長）の音頭で忘年会が華々しく開会となった。</p> <p>新しく入会された学員も交え、卒業年次を超え開校百年の事等在学中の話、あるいは社会に出てからの事等花が咲いた。杯を重ね旧交も温まったところで、年忘れのゲームの開始となった。</p> <p>工藤浩氏（昭和46年・商・札幌テレビ放送アナウンサー）いつものながらの名司会で、イントロクイズ、歌手当てクイズ、パターパター等のゲームに迷答、珍プレーが続出し、会場が盛り上がったところで、カナダから帰札中の学員から銀狐のストールが賞品として提供されるなど、時を忘れ、年を忘れて和気あいあいのうちに同窓の心がひとつにとけあって来た予定時間をオーバーし、次回の再会を期し、校歌を全員で合唱し、武田顧問（昭和17年・法・弁護士）の音頭で母校の発展と学員の活躍を願って万歳三唱し、忘年会を締めた。大学万歳、学員会万歳、昭和58年も良き年でありますように。（昭和35年・商・札幌パークホテル（株）・藤井昭司記）</p>
1983年	58	8	5	昭和58年度支部定時総会の開催	
		12	9	支部年末懇親会の開催	<p>昨年にくらべ、一足早い降雪と厳しい寒気が不況による懐の寒さを増幅しているかのような札幌で、12月9日、札幌全日空ホテル24階の「白楊の間」は、大勢の人と熱気に満ち溢れていた。毎年開かれる中央大学学員会札幌支部年末懇親会である。</p> <p>前回より若干少ないが120余名の参加を得、札幌テレビ放送のアナウンサー工藤浩氏（昭和46年・商）のはずみのある司会で始まった。</p> <p>渡辺支部長の挨拶は、母校の100周年記念事業と募金協力にどうしても力が入ってしまう。思えば、この一年、募金のための委員会を二部会に組織し、支部長以下役員有志が奮闘してきたが、募金事業の一環としての新しい会員名簿（約千五百名）も当日漸く間に合った。従前と異なり、苦心の広告掲載と有料頒布に、若干とまどいもあったようだが、さすが会員の察しは早い。「ハハ、募金だナ」ということで快く購入していただいた。</p> <p>支部長挨拶もユーモアを交えて適度に笑いを誘いながら、言いにくいこともさらりと話して終わり、続いて高田照市幹事長から諸般の報告、渡辺支部長の学員会本部副会長就任、JOC（日本オリンピック委員会）委員就任も披露されて一段と大きな拍手が沸く。高木正明先輩（参議院議員）からあらためて乾杯の発声があつて宴に入る。</p> <p>時節柄、代議士、道議の先輩から所属政党のP・Rもあったが、簡潔で好評、温かい激励の声も飛ぶ。各テーブル間の往来も賑やかになり宴たけなわの頃、司会者から自席へ着席命令が出る。（席は入場時にくじで決められている）</p> <p>今年のゲームは、テーブル対抗のイントロクイズ（代表各五人）とイントロ歌手当てクイズ（テーブル毎で協議）である。いつものことだが代表選手の選出に当っては、元気な先輩もいるが後輩にどうしてもシワ寄せが行きがちだ。しかし、これがまた一段と交歓を深めることになる。ゲ</p>

					<p>ームの進行につれて、逆転また逆転で、元大学生が無邪気に大騒ぎをしている。次は、幹事苦心のビンゴゲーム。</p> <p>この会ではよくやるゲームであるが、今回はゲーム盤一枚千円也。間違えて申告した者は千円から三千円の罰金。これらの大半は募金にまわる。</p> <p>平均一人一枚の協力があり、罰金はさすがに出なかった。賞品は、会員の有志からの寄贈で盛沢山。一枚で二度あてる者、五枚抱え込んでも全くダメな者、酔いも回って実にいい雰囲気である。二時間がアツという間に過ぎて、寺島伸治理事長（昭和29年・法・札幌市経済局長）のシメでおわったが、久方振りに意気軒昂たる支部の面々に接し、何とも心強く、愉快的な夕であった。</p>
1985年	60			創立100周年	
1985年		6	24	中央大学創立100周年記念講演会の開催	創立100周年記念講演会を開催。講師・北出清五郎（NHK外部委員・スポーツアナウンサー）「相撲よもやま話」
		7	27	中央大学父母懇談会へ参加	
		8	2	昭和60年度支部定時総会の開催	当支部定時総会を札幌グランドホテルで開催した。渡辺支部長以下59名が出席。
		11	25	中央大学創立100周年記念パーティーの開催	大学本部より笹原正三氏を迎え創立100周年記念パーティーを開催。渡辺支部長・ご来賓合わせて総勢257名が参集し、盛大に行われた。
1986年	61	8	6	昭和61年度支部定時総会の開催	<p>当支部定時総会を札幌全日空ホテルで開催した。札幌テレビ放送の工藤浩アナウンサー（昭和46年・商）の司会で総会が進行した。渡辺支部長以下50名会員出席</p> <p>渡辺支部長から支部の現況報告があり、特に高木正明氏が参議院議員に当選した嬉しいニュースの報告があった。また昨年11月25日に開催した札幌支部主催の母校中央大学100周年パーティーの様相について報告された。次いで高田幹事長から昭和60年度の決算報告、事業報告がなされ全員異議なく承認した。次いで懇親会に入った。全員の拍手に迎えられて母校の谷本新理事長、露野理事長室秘書課長が来賓席につきパーティーが進行した。</p> <p>谷本新理事長から詳細に母校の近況報告があり、会場は静寂の内にも大きな期待で理事長の報告に聞き入っていた。パーティーは工藤君のユーモアあふれる司会でなごやかに進行し、今年度新たに入会した学员、また入会はしていたが、はじめて出席した学员の紹介や、学员の挨拶等が行われ、会場は学员の結束をかためながら午後8時半無事パーティーを終了した。（昭和18年・法・渡辺法律事務所・渡辺敏郎記）</p>
		12	4	支部年末懇親会の開催	<p>12月4日は、寒い一日でした。当支部恒例の忘年会は、午後6時から新築成った札幌サンプラザで開かれた。館長の菅昭二氏は昭和28年・法卒の学员で「是非一度見てほしい」という希望もあって、会場を設定した。大広間にずらりとセットされたテーブルは120名分の席をセットした。</p> <p>今迄の出席率をみると「まあ、こんなものでよからう」ということになった。ところが、出席の返事があった会員のほとんどが出席、その数160名、テーブルが足りなくなって、あわてて用意するというハプニング、渡辺敏郎支部長も思わず「よく集まってくれたね」と大満足。昨年8月の総会から幹事役を仰せつかった「白門三十五会」（三十五年度卒業生を中心に組織されているグループ）の企画と動員力が実を結んだのか、新記録となった</p> <p>渡辺支部長もご満悦の表情だったが、菅館長も「同門がこんなに集まってくれたのは、当プラザの誇りであり、また来年も是非ご用命を・・・」とPR、盛んな拍手。乾杯で宴に入り、喜瀬浩札幌テレビ放送アナウンサー（昭和45年・法）の名司会で進行、三十五会が趣向をこらした出し物で、楽しいひと時を過ごした。</p> <p>また、新企画「全国地酒の旅」は、全国支部のご協賛をいただき、各地の名酒をご寄贈願った。青森支部をはじめ、岩手、山形、茨城、千葉、静岡東部、富山、石川、岐阜、奈良、兵庫、香川、広島十三支部から特産の地酒のご寄贈を戴きました</p> <p>司会者からこの事が報告されると、会場から割れんばかりの拍手が巻き起こった。学员会が全国的につながりのある事も、あらためてしみじみと感ずるとともに、ご寄贈下さった各支部に心からお礼申し上げます。</p> <p>宴がはじまると、十三支部からご寄贈の名酒が各テーブルに配られ、酔い心地も満点。ジャンボクイズでは、東京～札幌往復航空券（全日空）が当たり、腕相撲大会や騒音測定器による審査でカラオケ大会が催され、山ほどの賞品は見る見る底をついた。</p> <p>菅館長心づくしの豪華料理もさることながら、忘年会の雰囲気は最高潮。新年の健康と幸せを祈って万歳と校歌が流れ、それぞれ再会を約し、二次会へと急いだ。（昭和35年・法・財界さっぽろ・飛驒誠記）</p>
1987年	62	8	5	昭和62年度支部定時総会の開催	出席者98名
		12	3	支部年忘れの夕べ開催	<p>当支部「年忘れの夕べ」が12月3日午後6時から札幌全日空ホテルで開かれた。”暖秋”に恵まれ、師走に入っても車粉が舞っていた都心も、一夜にして三十センチ近いドカ雪に覆われた直後だが、128名の学员が元気な姿を見せ、会場のあちこちで「よおっ！」の声飛び、近況を知らせ合う名刺交換も。</p> <p>冒頭、渡辺敏郎支部長（昭和18年・法・弁護士）が「札幌支部は、昭和3年に支部総会を開いたという古い歴史を持つ。本学の学员会も来年は創立百周年を迎えるので、札幌でも何か行事を企画したいので、お力添えを」と挨拶、続いて檜森三男氏（昭和19年・法・北海道相互銀行監査役）が「乾杯」の発声。</p>

					<p>懇親会は、工藤浩氏（昭和46年・商・札幌テレビ放送記者）の司会で進められ、なごやかな雰囲気。</p> <p>その中でアイスホッケー部OBの橋本泰治氏（昭和29年・経済・フジフォトカラー社長）、ラグビー部OBの越智康行氏（昭和31年・経済・日動火災海上保険）が「後輩の活躍ぶり」等を報告。また、初めて出席した森弘樹氏（昭和61年・法・北海道職員）、武田利幸氏（昭和61年・法・札幌市職員）や、紅二点の佐藤美佳さん（昭和58年・文・旧姓岩原）、景山美智子さん（昭和58年・文・国際書房）が紹介され、「今後とも、よろしく」。恒例の余興大会は、個人戦が日本テレビ・札幌テレビでおなじみの「大陸横断ウルトラクイズ」、テーブル毎に代表選手を送る「スーパーガンビットゲーム」と「抱きしめたい」。</p> <p>会場の札幌全日空ホテルには、吉崎守三社長（昭和28年・法）、柴野研一総務部長（昭和38年・経済）が在籍する関係で、「大陸横断ウルトラクイズ」の賞品として、一位～五位の全日空の航空券や札幌全日空ホテルの食事券がプレゼントされ、柴田昌幸氏（昭和46年・文・柴田興産(株)代表取締役）が数多くの難問を見事に突破して優勝し、札幌～東京往復航空券を獲得。</p> <p>「スーパーガンビットゲーム」では六連発のエアースタイル吸盤付ダンプライフルの弾丸が不発に終わる場面もあって、その命中得点に一喜一憂。「抱きしめたい」は、ふくらませた風船をコンパニオンの”美女”と抱き合って早く割るという楽しくもあり、恥じらいもあって、しばらく時間を忘れて拍手と爆笑。最後は校歌の斉唱とエールで学生時代をしのび、吉田功次郎氏（昭和28年・法・北海道監査委員）による高らかな万歳三唱。それぞれに再会を約し、別れを惜しみながら散会した。（昭和27年・法・(株)北海道新聞社・林武記）</p>
1988年	63	6	27	支部役員会の開催	
		7	15	支部常任幹事会の開催	
		8	5	昭和63年度支部定時総会の開催	<p>当支部の定時総会は、8月5日午後6時から札幌グランドホテル3階「新緑の間」において、母校からご来賓として堂野学会会長、澤島常任理事の出席を得、学员132名が出席し開催された。</p> <p>渡辺敏郎支部長の挨拶の後、議事に入り、高田照市幹事長より、事業報告ならびに決算報告があり、満場一致で承認された。堂野会長、澤島常任理事から、100周年記念の寄付の目標が達成されたお礼、本年度の就職状況は順調である。</p> <p>また各業界に進出している企業の経営者の出身者が、本学は全国で第三位を占めている等々母校の近況について詳細な説明、報告があった。引き続き懇親会に入り、斉藤辰二氏（昭和17年・法・北海道用地(株)代表取締役）の乾杯の音頭で宴に入った。</p> <p>懇親会は和気藹々たる雰囲気の中、学员同窓旧交を温めあった。また、ご来賓として出席した本学父母連絡会札幌支部長の阿部貞夫氏から、今後学会との連絡を密にしていきたいとの挨拶、出席者の中から紅二点の佐藤美佳さん（昭和58年・文・ファミリーイングリッシュクラブ）、景山美智子さん（昭和58年・文）のスピーチ、本年度より入会の新人の福富康夫氏（昭和63年・法・札幌商工会議所）ほか2名の紹介等が行われ先輩達から大歓迎の拍手を受けた。</p> <p>最後に寺島伸治氏（昭和29年・法・札幌総合情報センター(株)専務取締役）の締めの音頭の後、先輩、後輩、肩を組み校歌・応援歌・惜別の歌を合唱し盛会裡に終了、散会した。（昭和39年・商・札幌商工会議所・西原 達之記）</p>
		10	28	支部役員会の開催	
		11	5	支部常任幹事会の開催	
			28	支部年末懇親会の開催	<p>当支部「年忘れの夕べ」が11月28日午後6時から札幌全日空ホテルで開かれた。夏の総会が会務報告、母校の現況報告と多少お堅い面があるとするれば、冬の集まりは文字通り年忘れにふさわしいものに定着している。</p> <p>昨年も一昨年もそうであったように、老若学员のいずれもが楽しめるようにとの配慮から年々趣向が凝ってくる。それだけに幹事の事前準備は大変なものだと思う。</p> <p>12のテーブルに着席した130名の学员は、高田照市幹事長の開会の挨拶、渡辺敏郎支部長より過日開会された中央大学100周年の報告などに一年間のご苦勞を謝す拍手を送った。</p> <p>懇親会では、テーブル対抗、個人対抗等のゲーム、中でも我が中央大学の問題が中心のイエス・ノークイズでは、渡辺支部長が博学なところを発揮され見事優勝。また学员一人100円を出して行ったジャンケンゲームで集まった15,000円を北海道新聞社会福祉振興基金に寄付するなど、先輩も後輩も最後の校歌合唱までの2時間半本当に時を忘れた。</p> <p>最後に平野明彦氏（昭和32年・法、北海道議会議員）より閉会の挨拶があり三々五々散会した。会場提供と料理に気を配った学员、賞品提供に協力の学员、言うまでもなく幹事役の学员の努力、いずれもが一つに結実して、今年の札幌支部忘年会は来年の発展を約して盛会だった。（昭和31年・法・北日本電話・奥策久治記） 昭和最終</p>